

Jミルクが2019年10月4日に公表した直近の「需給見通し(※2019年8月迄実績)」の予測値と実績をグラフ化しています。

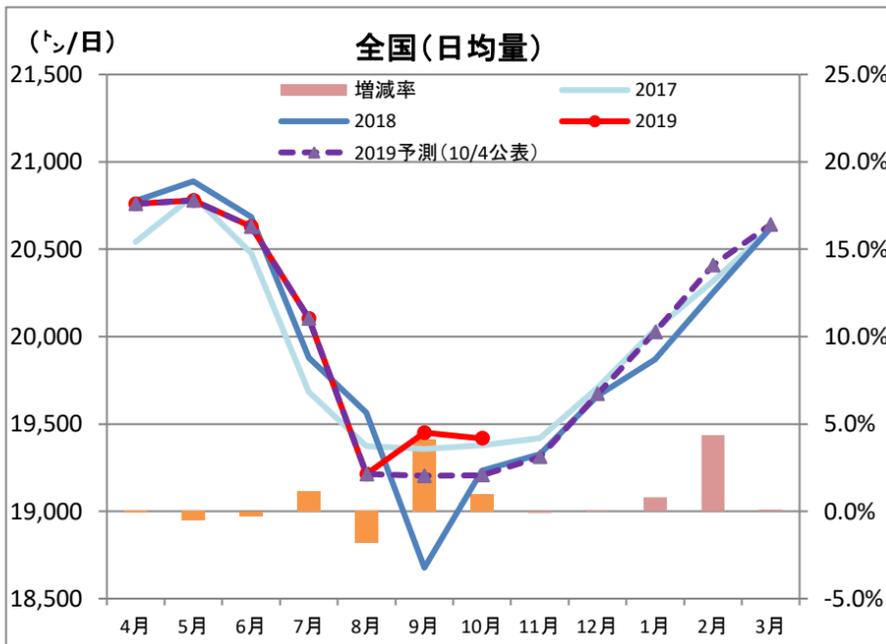
毎月25日の「牛乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も随時、配信していきます。

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

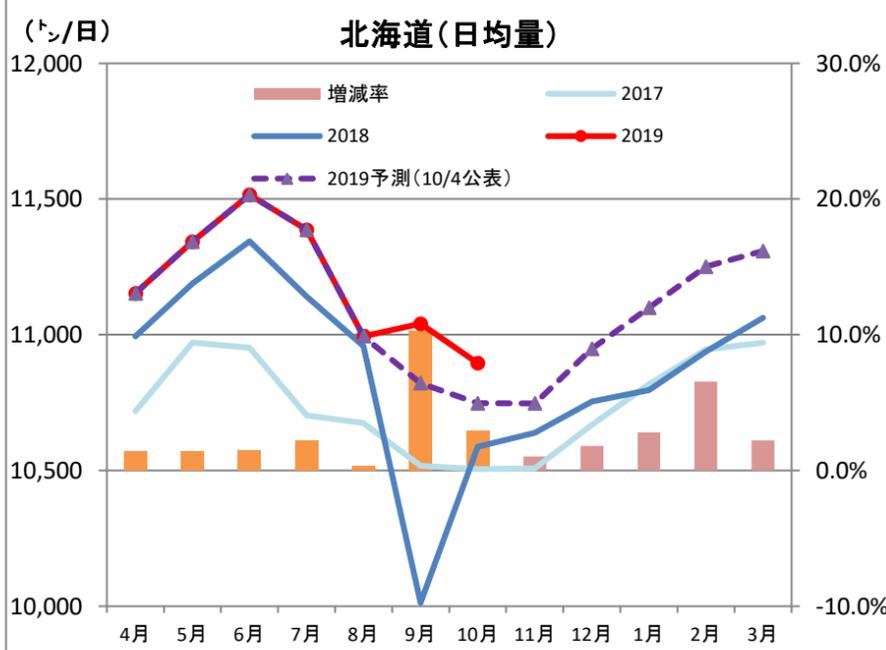
### 【生乳生産量】

- (1) 10月の生乳生産量は、全国602千トン(前年同月比101.0%)、北海道338千トン(同102.9%)、都府県264千トン(同98.6%)。
- (2) 北海道は、Jミルク10/4予測値(333千トン、同101.5%)を1.4ポイント上回った。前月に続き予測を上振れし、好調な推移を見せている。
- (3) 一方都府県も予測値(262千トン、同97.9%)をやや上振れ。心配された千葉県をはじめとする関東の生産も日均量ベースで見ると回復している。
- (4) 11月の指定団体速報値によると、全国が同100.1%、北海道が同101.8%、都府県(沖縄除く)が同98.1%(※北海道は下旬まで、全国・都府県は中旬まで)。

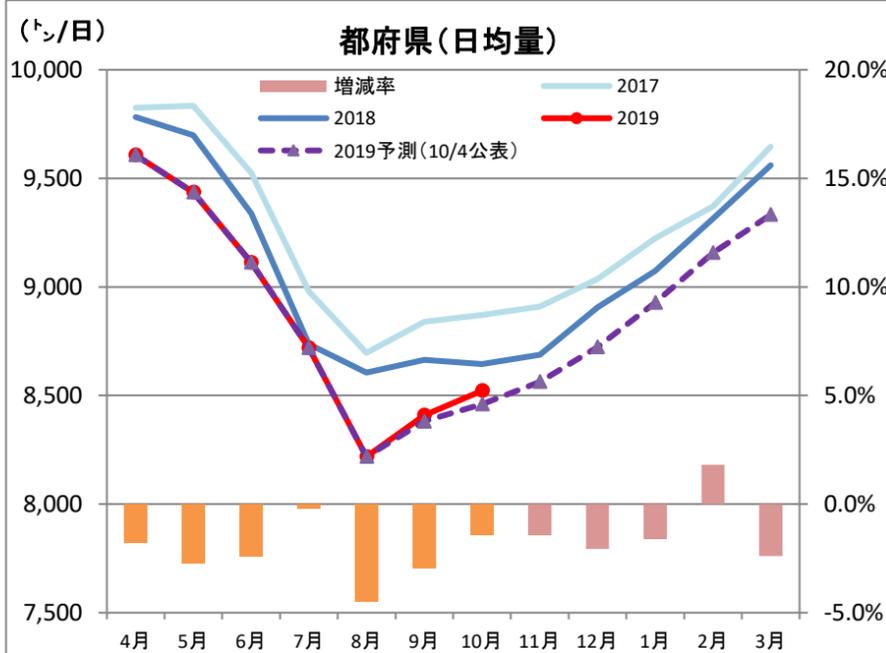
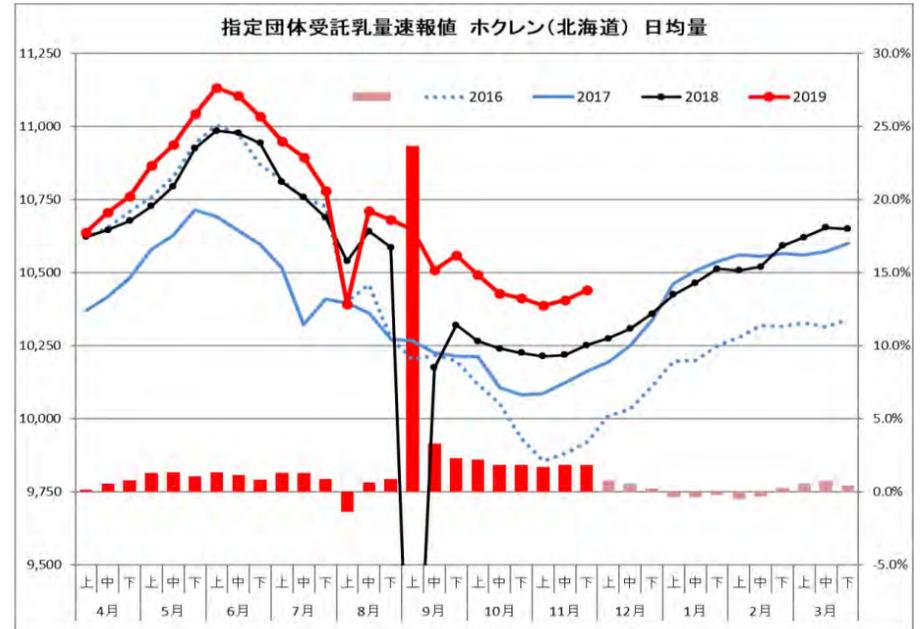
北海道は引き続き好調。都府県について、前月は前年3ポイント割れだったが2ポイント程度となっている。**都府県における出生頭数が7月以降前年を超えて推移(6頁参照)している**ことから、日均量の増加に繋がっているものと考えられる。



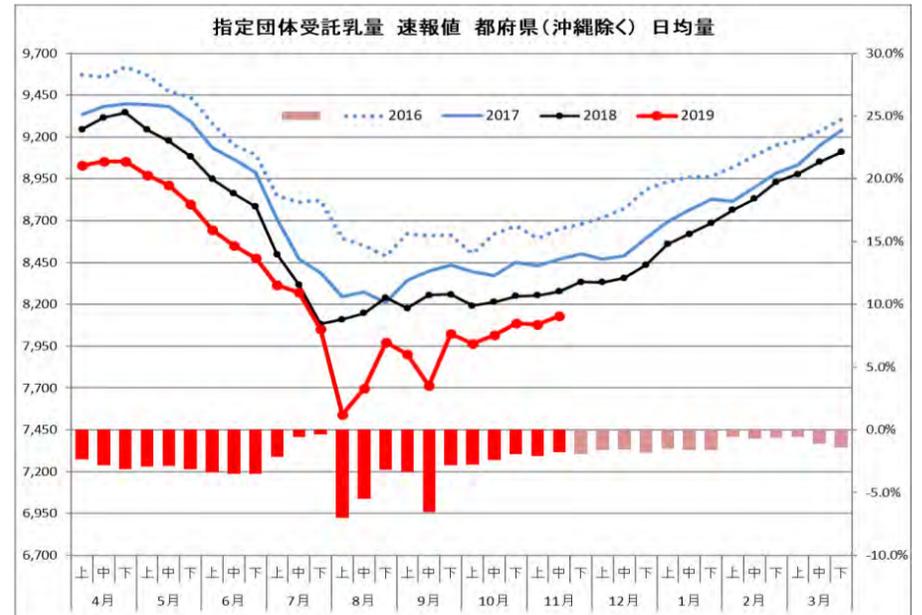
### 11月中旬まで 指定団体速報値 全国(沖縄除く)



### 11月下旬まで 指定団体速報値 ホクレン



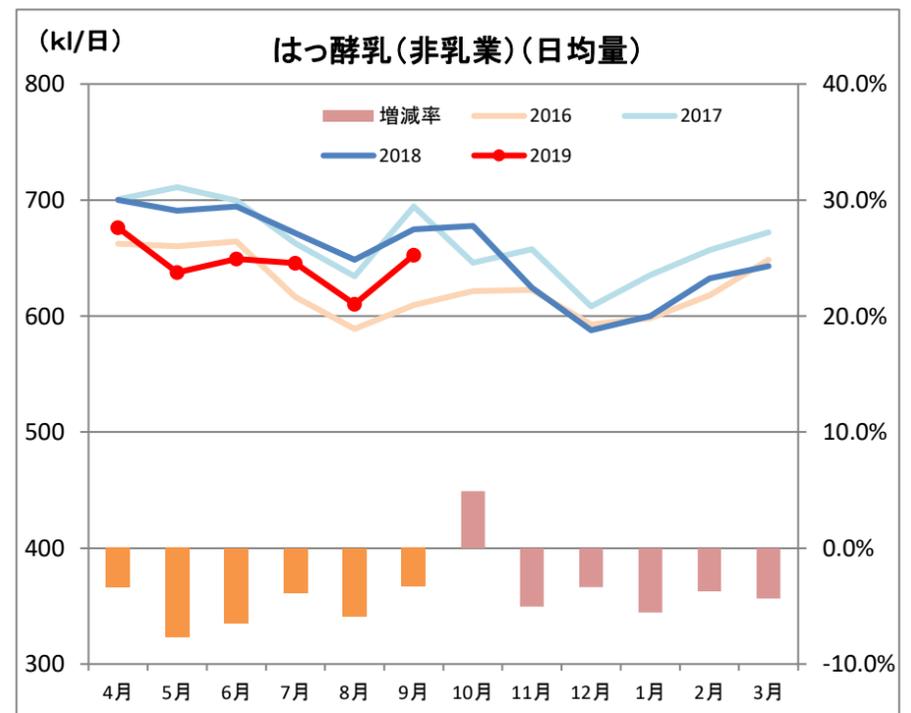
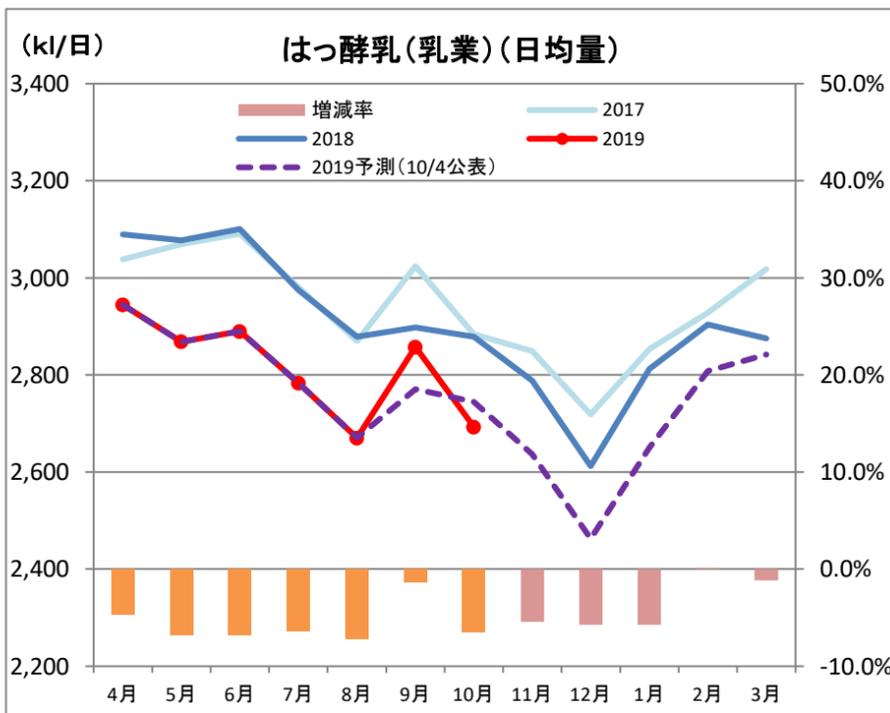
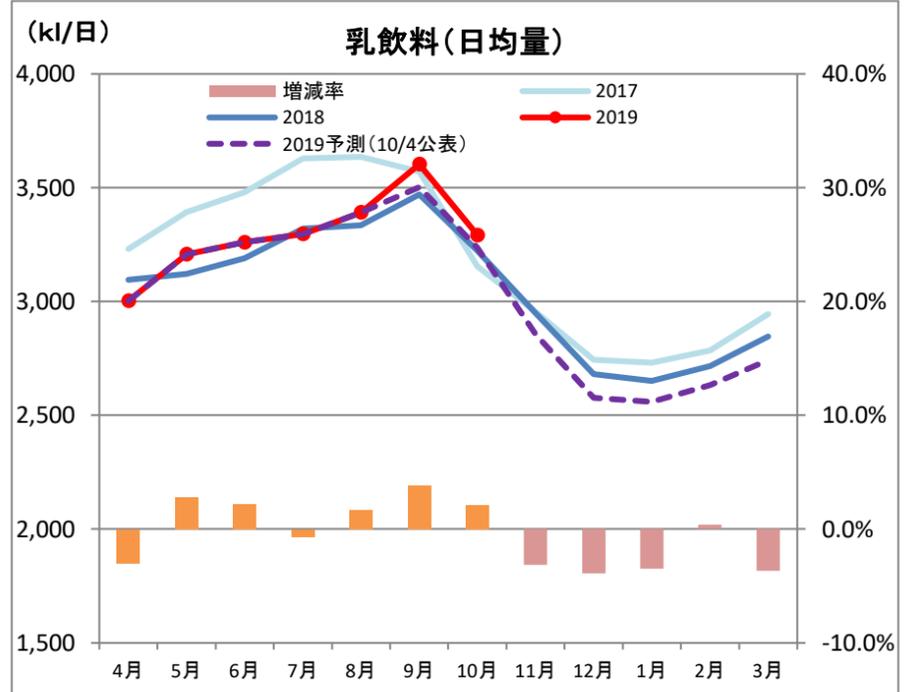
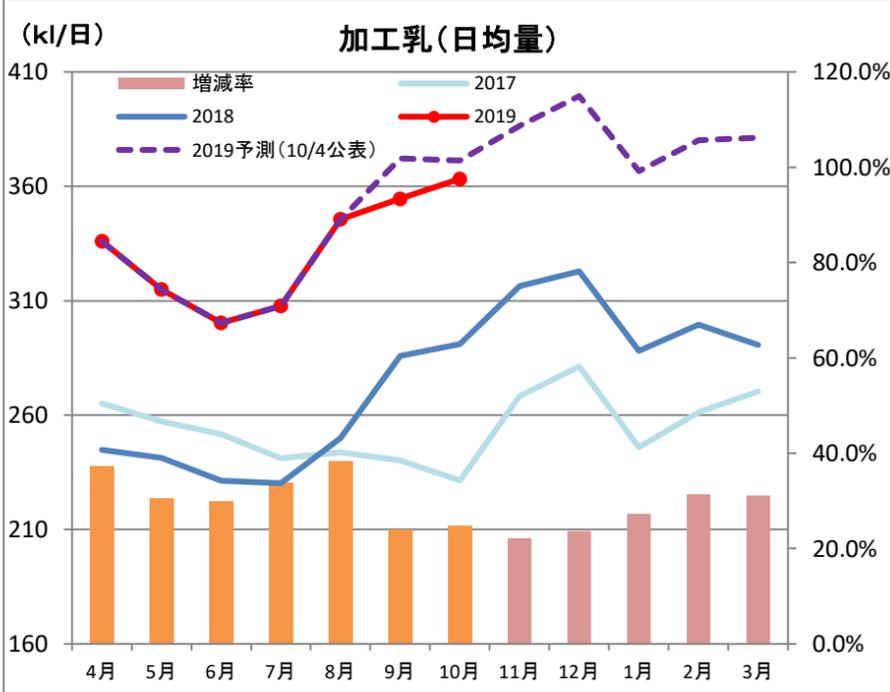
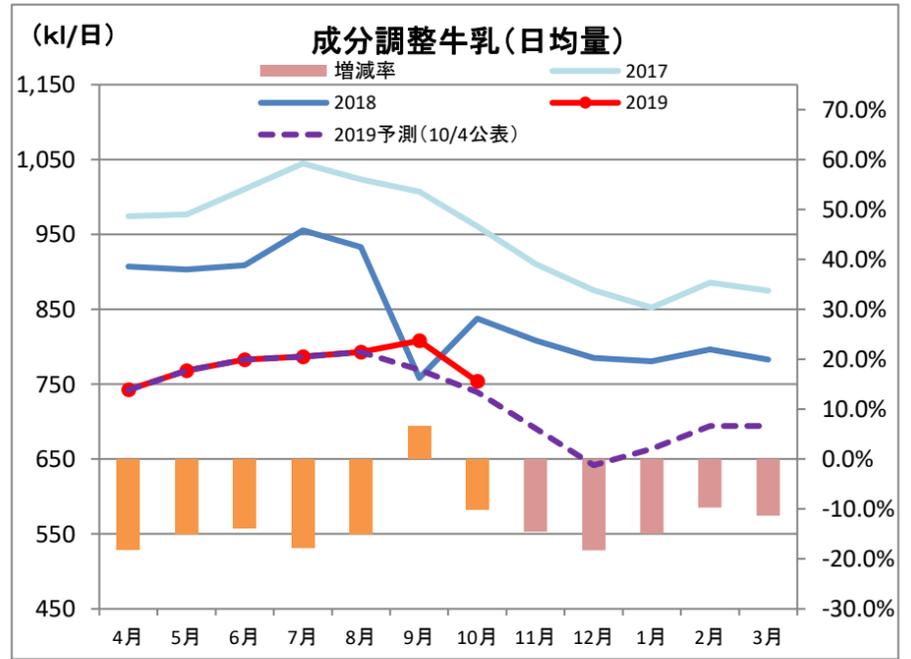
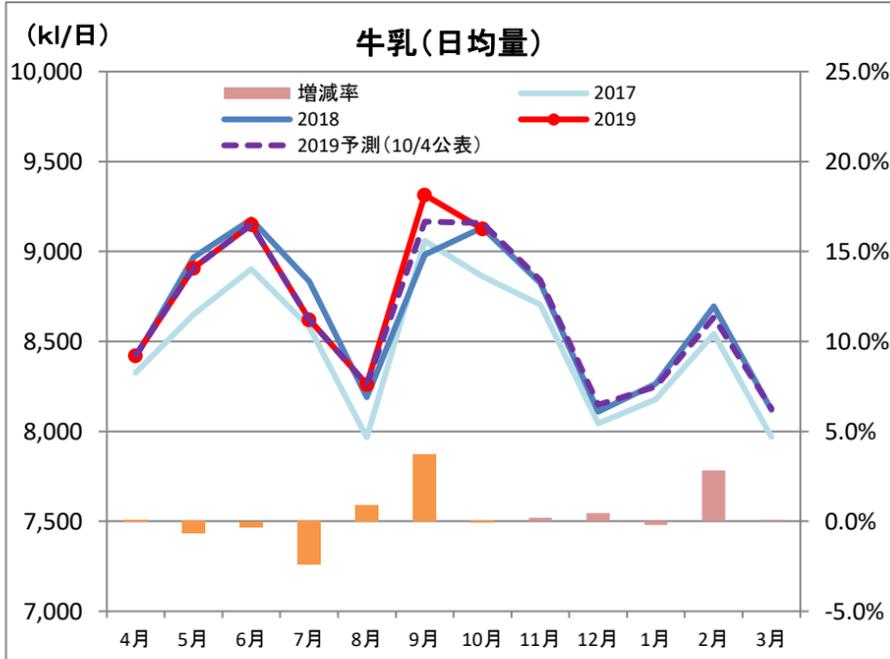
### 11月中旬まで 指定団体速報値 都府県(沖縄除く)



### 【牛乳等生産量】

- (1) 10月の牛乳等生産量は、牛乳283千kl(前年同月比99.9%)、成分調整牛乳23千kl(同89.9%)、加工乳11千kl(同124.8%)、乳飲料102千kl(同102.1%)となり、牛乳類で420千kl(同100.4%)となった。
- (2) 学乳を除いた「牛乳」は同100.8%と引き続き堅調。「業務用」は前年同月(同103.7%)の反動もあり同97.8%と前年割したもの、「業務用以外」は同101.3%と好調。
- (3) 加工乳・成分調整牛乳は目立った動きはないが、「乳飲料」は同102.1%と3ヶ月連続で前年を上回り好調。
- (4) 一方で、はっ酵乳(乳業)は83千kl(同93.5%)と前年を下回り、14ヶ月連続で前年割れ、9月の非乳業実績についても同96.7%と11ヶ月連続で前年割れとなり、ダウントレンドが続く。はっ酵乳消費の減少は、その原料となる脱脂粉乳・脱脂濃縮乳需要に影響を及ぼしている。

※はっ酵乳(非乳業)資料:(一社)食品需給研究センター「食品製造業の生産動向」



## 【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI】

(1)2019年11月よりデータ対象店舗にドラッグストア業態を追加した。あわせて2007年度まで遡及し更新したため、数値がこれまでと異なることに留意。

(2)10月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比102.6%、成分調整牛乳:同80.7%、加工乳:同178.1%、乳飲料:同99.0%。

各品目(前年比に乖離はあるが)、牛乳乳製品統計と同様の傾向を示す。「牛乳」はここ2ヶ月前年を超えて推移し、「乳飲料」は前年並みの水準に近づいた。

・販売単価は、牛乳:190.2円、成分調整牛乳:173.8円、加工乳:183.3円、乳飲料:151.4円。

これまでのデータと比較すると全ての品目が安くなっている(「牛乳」約▲2円、「成分調整牛乳」約▲1.5円、「加工乳」約▲5.5円、「乳飲料」約▲2.0円)。

・このことは、対象店舗に追加したドラッグストアが他の業態より廉価で販売していると推察できる。

(3)当該データと牛乳乳製品統計を(前年同月比ベースで)比較した場合、乖離(統計の方が高い)が出ていたが、その差はやや縮まった(表②参照)。

(4)11月の動向

・販売個数(週次3週合計)は、牛乳:100.4%、成分調整牛乳:81.9%、加工乳:181.0%、乳飲料:102.2%。

・※出典 (株)インテージSRI週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。これらのデータ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の販売動向】

品目	区分	2019/4-	2019/5-	2019/6-	2019/7-	2019/8-	2019/9-	2019/10-
トータル	販売個数	134,835	146,125	146,089	150,712	157,017	153,596	148,298
	販売個数前年比	95.8	96.1	96.8	91.6	96.8	100.1	100.8
	販売単価	181.1	182.0	182.1	182.5	183.2	182.6	182.4
牛乳	販売個数	98,671	106,849	106,658	109,892	115,243	111,701	108,225
	販売個数前年比	98.2	97.4	97.8	92.4	98.0	100.5	102.6
	販売単価	188.6	189.5	189.8	190.3	190.9	190.5	190.2
成分調整牛乳	販売個数	12,089	12,781	12,615	13,213	13,581	13,640	12,364
	販売個数前年比	73.5	77.0	78.1	74.8	78.2	105.5	80.7
	販売単価	171.1	172.8	173.1	173.5	173.9	173.5	173.8
加工乳	販売個数	3,303	3,831	3,805	3,959	3,942	3,972	3,871
	販売個数前年比	183.7	180.4	180.3	173.9	178.2	160.1	178.1
	販売単価	184.5	187.9	186.2	186.6	188.2	184.7	183.3
乳飲料	販売個数	20,772	22,664	23,011	23,648	24,251	24,283	23,838
	販売個数前年比	94.2	96.1	98.0	92.2	96.7	90.2	99.0
	販売単価	150.3	150.8	150.7	150.6	151.1	151.0	151.4

【表② 牛乳乳製品統計との比較(前年同月比)】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
SRI 牛乳類	前年比	95.8	96.1	96.8	91.6	96.8	100.1	100.8
統計 牛乳類	前年比	98.7	99.7	99.9	97.6	100.7	104.3	100.4
差(SRI-統計)		-2.9	-3.6	-3.1	-6.0	-3.9	-4.2	0.4
SRI 牛乳	前年比	98.2	97.4	97.8	92.4	98.0	100.5	102.6
統計 牛乳	前年比	100.2	100.3	99.6	97.0	100.4	102.5	101.3
差(SRI-統計)		-2.0	-2.9	-1.8	-4.6	-2.4	-2.0	1.3
SRI 成分調整牛乳	前年比	73.5	77.0	78.1	74.8	78.2	105.5	80.7
統計 成分調整牛乳	前年比	81.9	85.1	86.2	82.3	85.0	106.6	89.9
差(SRI-統計)		-8.4	-8.1	-8.1	-7.5	-6.8	-1.1	-9.2
SRI 加工乳	前年比	183.7	180.4	180.3	173.9	178.2	160.1	178.1
統計 加工乳	前年比	137.2	130.5	129.8	133.7	138.2	124.0	124.8
差(SRI-統計)		46.5	49.9	50.5	40.2	40.0	36.1	53.3
SRI 乳飲料	前年比	94.2	96.1	98.0	92.2	96.7	90.2	99.0
統計 乳飲料	前年比	97.0	102.8	102.2	99.3	101.7	103.8	102.1
差(SRI-統計)		-2.8	-6.7	-4.2	-7.1	-5.0	-13.6	-3.1

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】

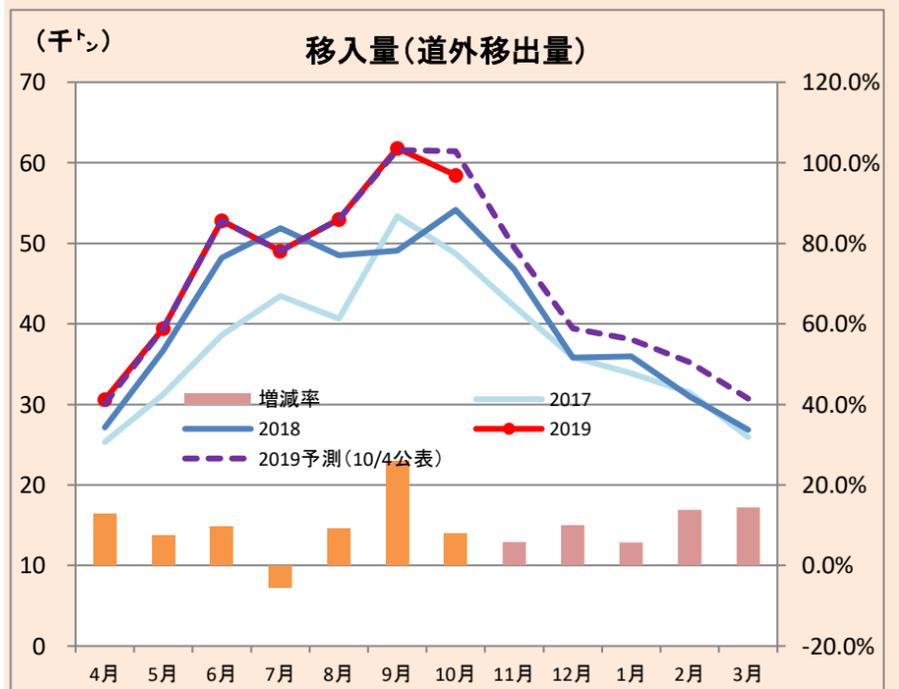
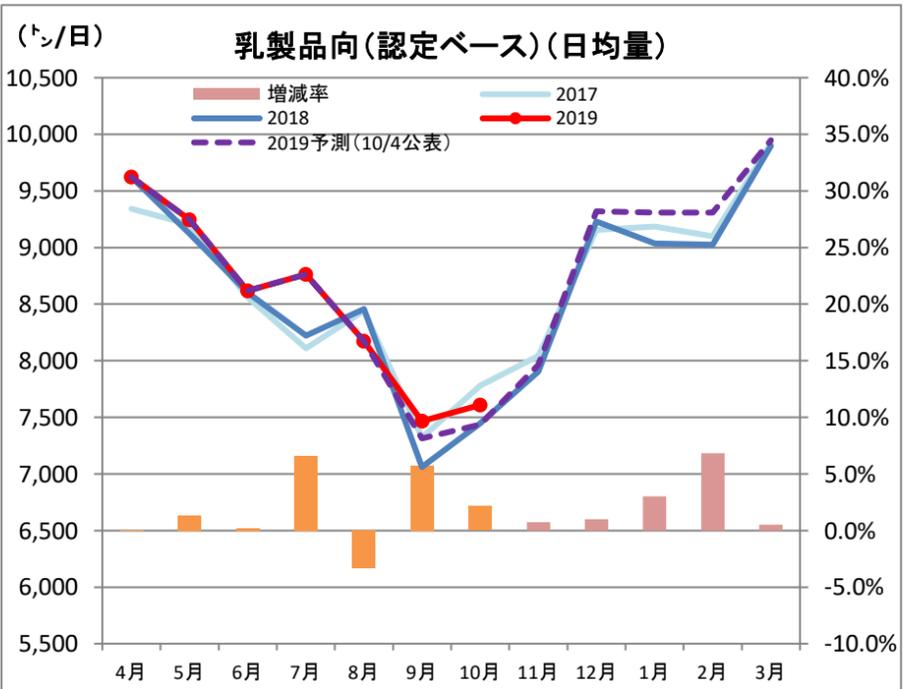
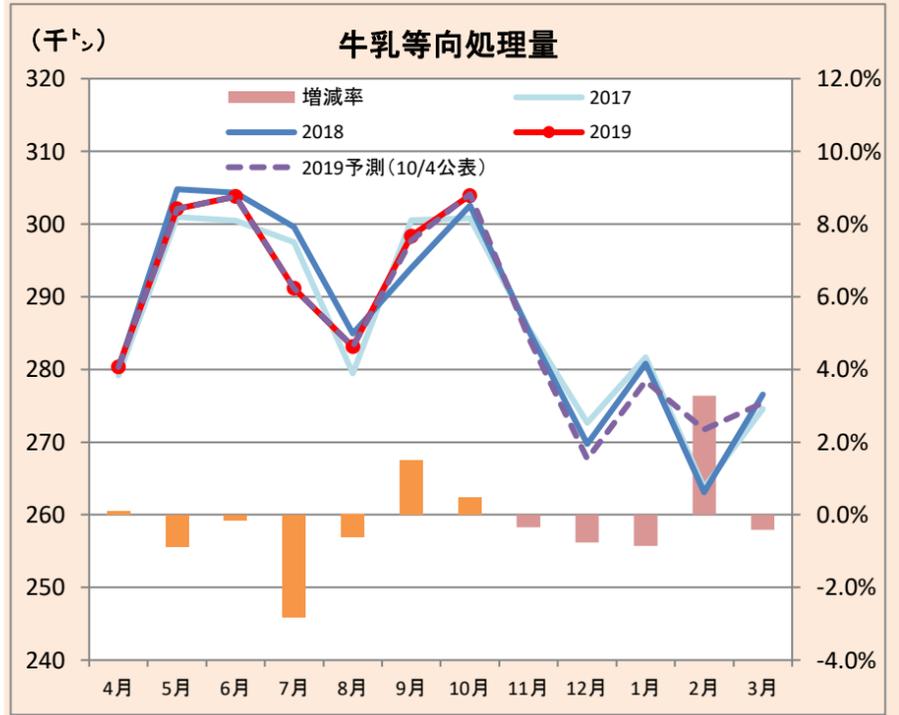
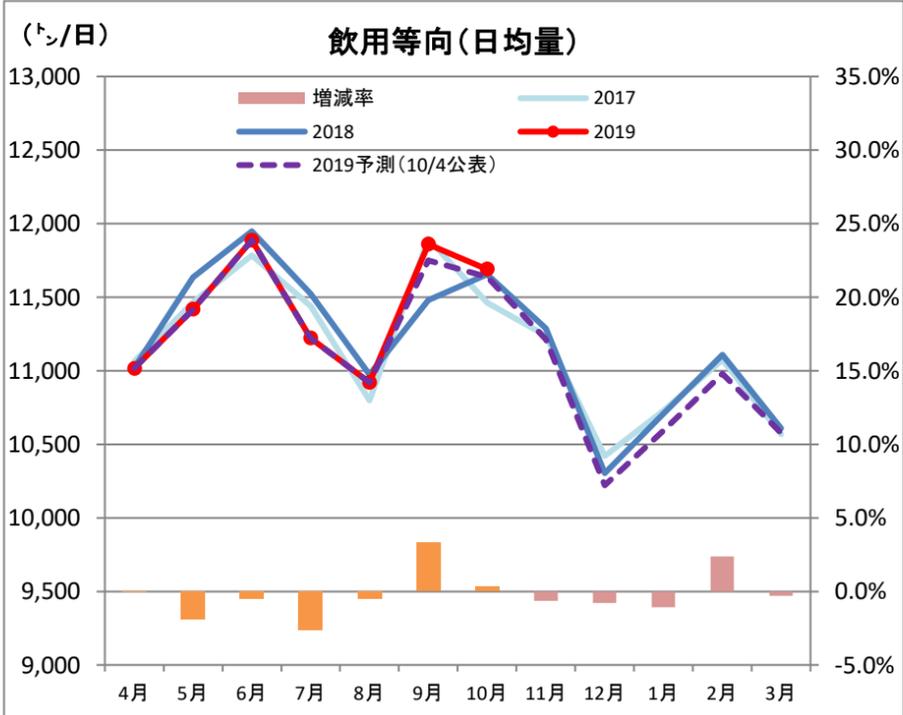
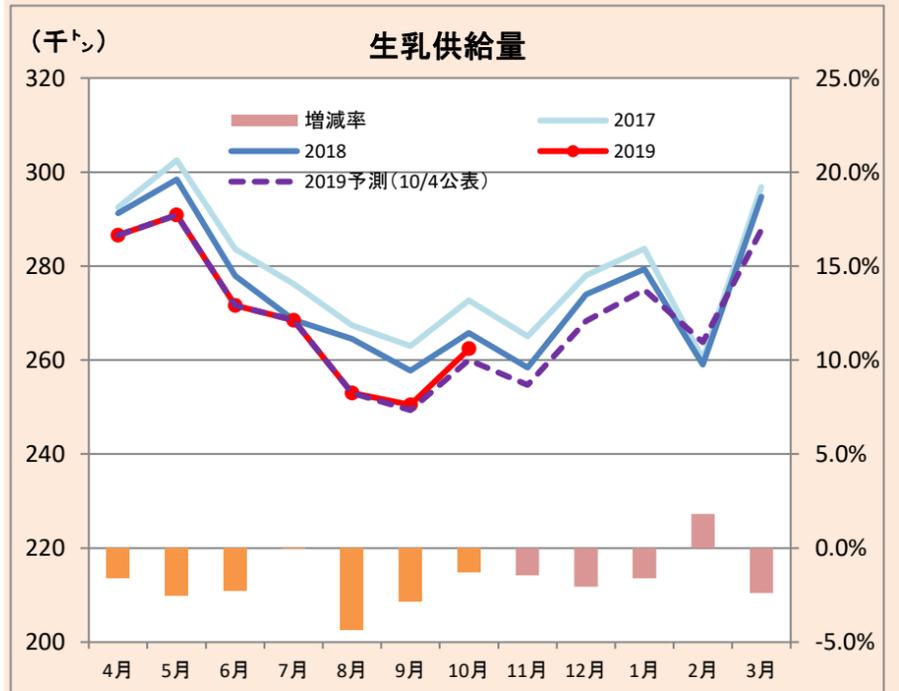
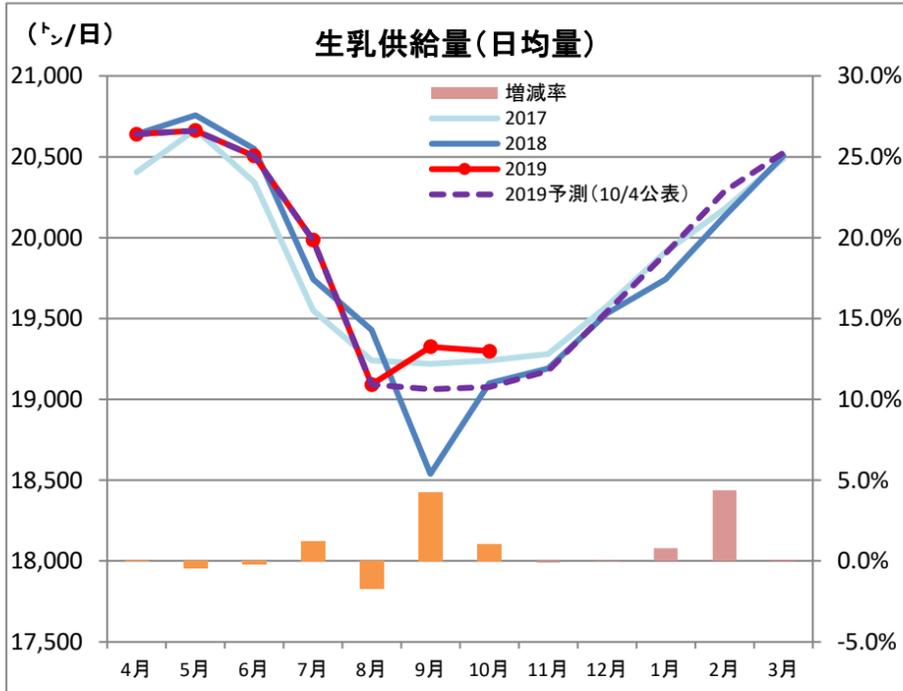


【用途別処理量】

(1)10月の生乳供給量は598千ト(前年同月比101.0%)、飲用等向362千ト(同100.3%)、乳製品向(認定ベース)236千ト(同102.1%)。  
 (2)乳製品向は、8月を除き各月前年を上回る処理量で、脱パタ向も10月末累計で前年比104.7%と十分な量が確保されている。  
 (3)北海道の生産が好調で、今後全国の供給量は前年を超えて推移することが予測され、乳製品向について、前年+2ポイント前後で推移する見通し。

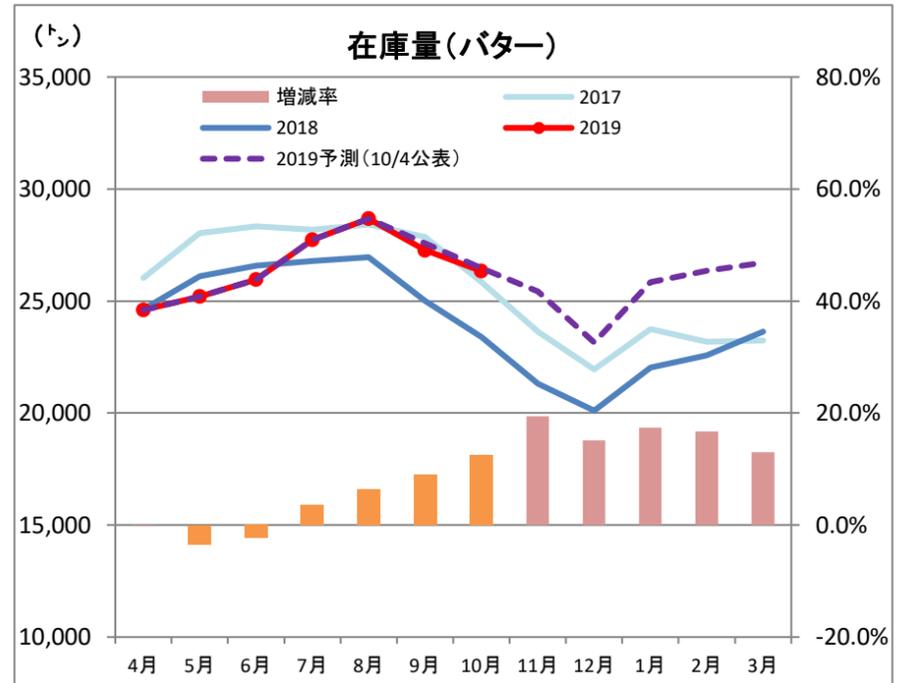
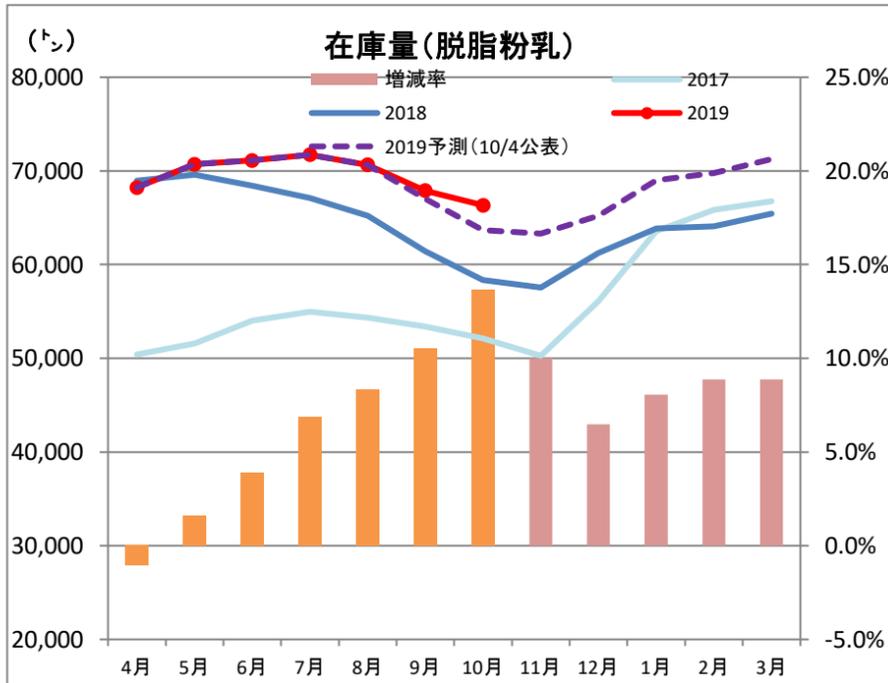
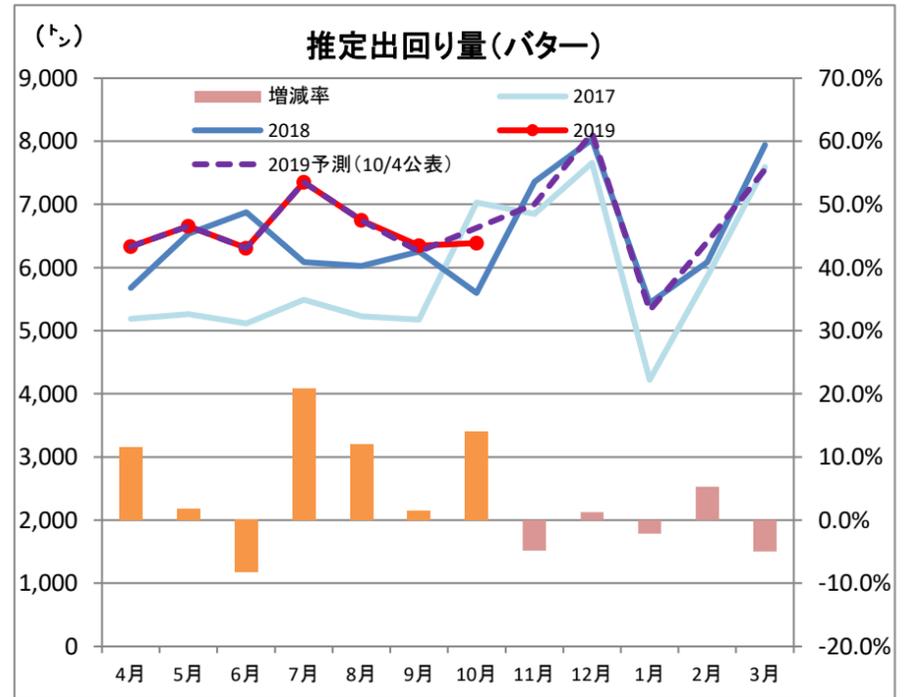
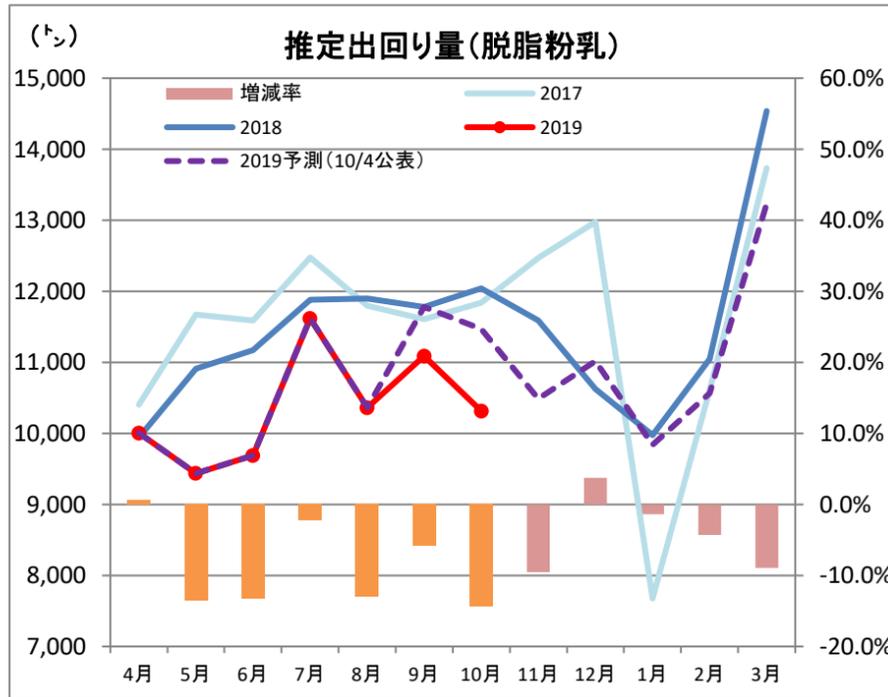
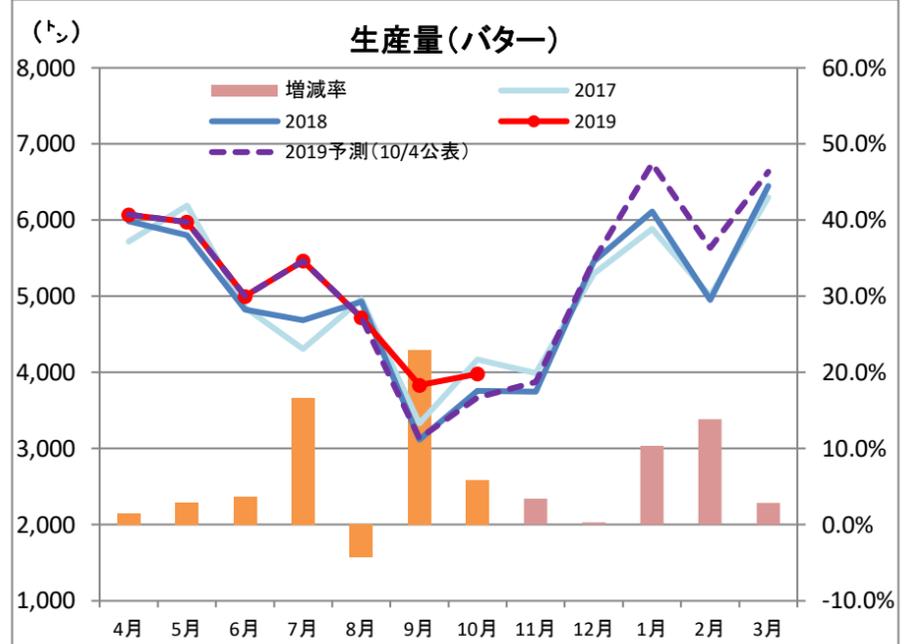
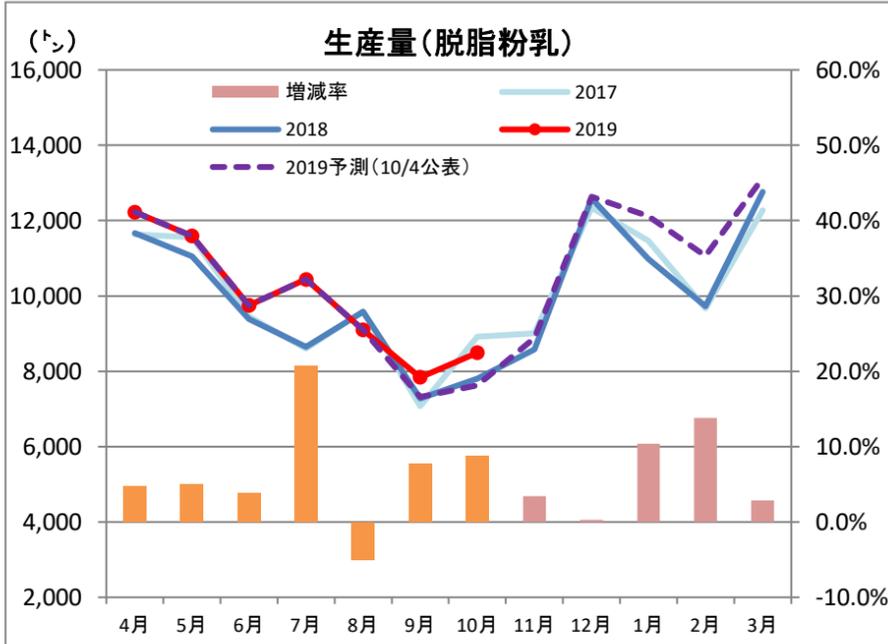
【都府県の生乳需給】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)10月の生乳供給量262千ト(前年同月比98.7%)、牛乳等向304千ト(同100.5%)、北海道からの移入量について、59千ト(同107.9%)。  
 (2)北海道からの移入量は10月としては2年連続で50千トを超え、過去最高値(これまでは2002年の56千ト)。  
 (3)台風により複数回航路が欠航してこの結果は、ほくれん丸の増強や生産者団体・乳業メーカーの一体となった調整によるところが大きい。  
 (4)11月以降はやや落ち着きを見せているものの、依然として移入量は前年を上回る見通し。



【脱脂粉乳・バター需給】 ※増減率は、日均量で算出。

- (1) 脱脂粉乳は、10月の生産量は8.5千ト(前年同月比108.7%)、推定出回り量は10.3千ト(同85.7%)、その結果、在庫量は66.3千ト(同113.7%)。推定出回り量(≒需要量)は大きく前年を割り込み、6ヶ月連続で前年割れ。
- (2) バターは、10月の生産量は4.0千ト(同105.8%)、推定出回り量は6.4千ト(同114.1%)、その結果、在庫量は26.3千ト(同112.6%)。推定出回り量(≒需要量)は堅調に推移。
- (3) 直近の輸入入札状況について、11/21バターは全量の1千トが落札され、今年度枠としては、12月、1月の2回を残すところ(ともに1千トの入札)。
- (4) 一方脱脂粉乳は、2019年度輸入枠: 14千ト(10/4、6千ト削減)に対し、これまで5千トが落札。現在公示されている今後の入札スケジュールは12月1.5千ト。
- (5) 例年のスケジュールでは年明け1月下旬には翌年度の輸入数量枠が公表されるため、需要動向を踏まえた設定が望まれる。



【乳用種からの出生頭数動向 速報値】

(1)2019年度9月までの乳用種からの出生頭数(乳用種雄・雌、交雑種)をみると、ここ3ヶ月は北海道・都府県ともに前年を上回り推移している。  
 (2)乳用種雌牛についても、9月末累計で全国では前年比102.5%、北海道:同102.5%、都府県:102.6%と前年を超えている。  
 (3)2016年度より減少が続いている交雑種について、7月以降前年を超え推移し、9月末累計で全国では101.8%と前年を超えた。このことにより、高止まりが続いた初生とくの販売価格が徐々に下がりにつつある。  
 ※家畜改良センターの速報値。

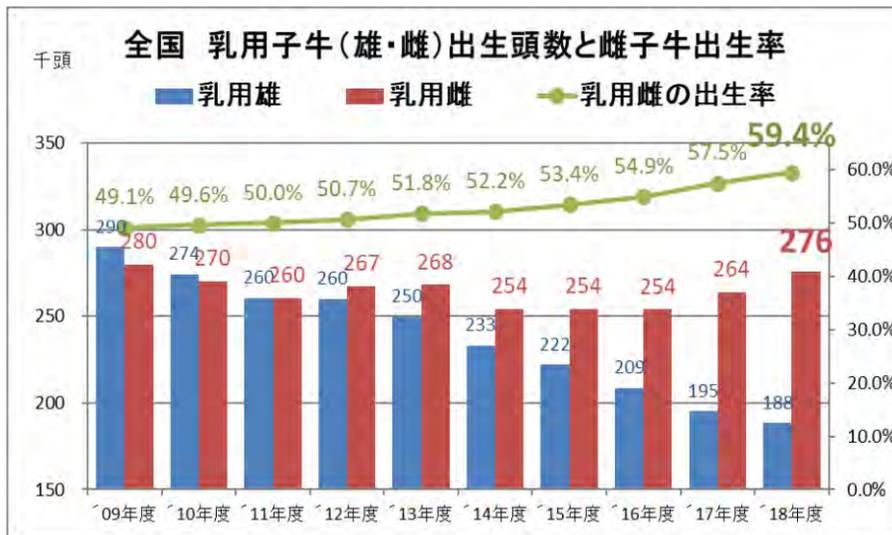
月	合計	前年比	乳用種オス	前年比	乳用種メス	前年比	交雑種	前年比
2017年度計	693,285	99.3%	191,186	94.2%	236,644	104.6%	233,510	96.8%
2018年度計	691,879	99.8%	183,993	96.2%	248,853	105.2%	225,738	96.7%
4月	50,802	100.2%	13,193	98.6%	18,857	103.1%	16,106	97.5%
5月	50,843	96.6%	13,191	91.6%	19,231	99.7%	15,589	94.6%
6月	55,065	97.8%	14,253	93.3%	20,576	98.8%	17,220	98.3%
7月	65,748	102.9%	17,223	99.2%	23,853	104.8%	21,314	101.9%
8月	66,987	106.0%	17,244	98.7%	24,058	105.9%	22,215	111.2%
9月	61,643	101.3%	15,761	94.5%	22,015	102.2%	20,693	104.7%
2019年度計	351,088	50.7%	90,865	49.4%	128,590	51.7%	113,137	50.1%
4-9月比	101.0%		96.1%		102.5%		101.8%	

月	合計	前年比	乳用種オス	前年比	乳用種メス	前年比	交雑種	前年比
2017年度計	412,684	99.3%	139,122	93.9%	170,748	102.7%	94,187	100.2%
2018年度計	417,098	101.1%	133,801	96.2%	180,114	105.5%	93,458	99.2%
4月	34,583	106.2%	10,696	103.6%	15,132	106.8%	7,864	107.4%
5月	35,154	98.2%	10,795	93.6%	15,483	100.7%	8,016	98.5%
6月	35,051	97.6%	10,786	92.3%	15,499	98.4%	7,914	102.3%
7月	39,921	102.9%	12,472	97.4%	17,287	104.5%	9,051	105.1%
8月	39,213	103.1%	12,033	95.5%	16,963	104.3%	9,062	110.4%
9月	35,834	100.2%	10,978	92.6%	15,279	100.4%	8,464	107.6%
2019年度計	219,756	52.7%	67,760	50.6%	95,643	53.1%	50,371	53.9%
4-9月比	101.3%		95.7%		102.5%		105.2%	

月	合計	前年比	乳用種オス	前年比	乳用種メス	前年比	交雑種	前年比
2017年度計	280,601	99.2%	52,064	94.9%	65,896	109.8%	139,323	94.7%
2018年度計	274,781	97.9%	50,192	96.4%	68,739	104.3%	132,280	94.9%
4月	16,219	89.4%	2,497	81.4%	3,725	90.4%	8,242	89.7%
5月	15,689	93.2%	2,396	83.5%	3,748	95.5%	7,573	90.9%
6月	20,014	98.2%	3,467	96.5%	5,077	100.2%	9,306	95.2%
7月	25,827	102.9%	4,751	104.5%	6,566	105.5%	12,263	99.6%
8月	27,774	110.4%	5,211	107.1%	7,095	109.9%	13,153	111.8%
9月	25,809	102.8%	4,783	99.4%	6,736	106.4%	12,229	102.8%
2019年度計	131,332	47.8%	23,105	46.0%	32,947	47.9%	62,766	47.4%
4-9月比	100.5%		97.3%		102.6%		99.2%	

【乳用種からの出生頭数動向 確報値】

(1)10/30に公表された2018年度の乳用種からの出生頭数(乳用種雄・雌、交雑種)・確報値によると、乳用雌牛は全国276千頭(前年比104.6%)、北海道187千頭(同105.2%)、都府県89千頭(同103.4%)と前年を上回った。また、ここ10年間では2009年度の280千頭につき、2番目に多く、後継牛確保の成果で出ている。  
 (2)また、乳用種に占める雌の割合は、全国:59.4%、北海道:58.2%、都府県:62.2%。性判別精液の普及により年々雌の割合が高まりおよそ6割となった(都府県では6割を超えた)。性判別精液は、①コスト(通常精液より数倍の価格)、②受胎率(初妊牛への使用が大半で経産牛には使用し難い)、この2つの課題があり、雌の割合がどこまで高まるのか着目される。  
 (3)確報値と速報値の違いについて。翌々月までに集計される速報値に対し、年間1回公表される確報値の方が、頭数が多くなる。  
 ※家畜改良センターの確報値。



年度	全国 乳用種(ホル、ジャージー、乳用種)						
	雄	前年比	雌	前年比	雌比率	合計	前年比
'09年度	289,796	101.8%	279,892	104.3%	49.1%	569,688	103.0%
'10年度	274,289	94.6%	270,308	96.6%	49.6%	544,597	95.6%
'11年度	260,423	94.9%	260,317	96.3%	50.0%	520,740	95.6%
'12年度	260,091	99.9%	267,351	102.7%	50.7%	527,442	101.3%
'13年度	249,830	96.1%	268,119	100.3%	51.8%	517,949	98.2%
'14年度	233,144	93.3%	254,277	94.8%	52.2%	487,421	94.1%
'15年度	221,941	95.2%	254,407	100.1%	53.4%	476,348	97.7%
'16年度	208,531	94.0%	253,903	99.8%	54.9%	462,434	97.1%
'17年度	195,091	93.6%	263,753	103.9%	57.5%	458,844	99.2%
'18年度	188,289	96.5%	275,912	104.6%	59.4%	464,201	101.2%

